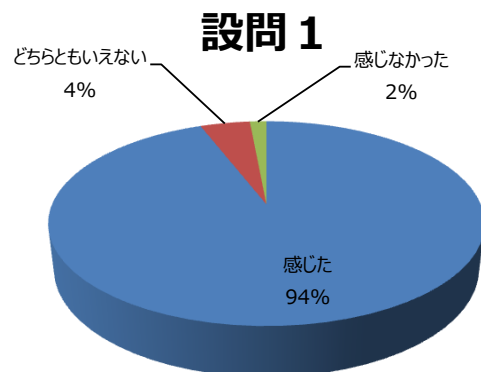


平成26年度「合理的配慮の必要性を理解する」職員研修受講者アンケート集計結果

設 問	感じた	どちらともいえない	感じなかった	受講者数	回収率
1 今日の研修は、「必要」と感じるものでしたか。	64	3	1	69人	99%



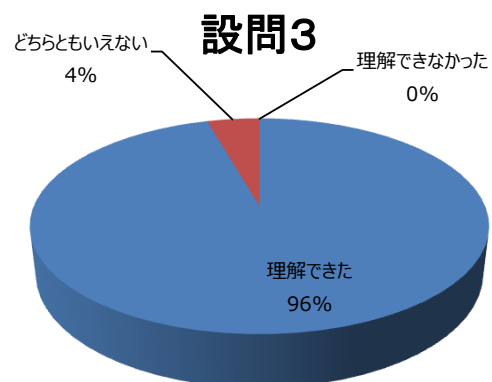
設問 2 どちらともいえない、感じなかった理由

障がい者の体験談はとても有意義でした。障がい者の方 2 人以外の話は特に印象に残らなかった。

以前よりバリアフリー等に配慮して、道路、広場等の整備を行っている。

## 平成26年度「合理的配慮の必要性を理解する」職員研修受講者アンケート集計結果

設 問	理解できた	どちらともいえない	理解できなかった	受講者数	回収率
3 研修の内容を理解できましたか。	65	3	0	69人	99%



### 設問4 どちらともいえない、理解できなかった理由

体験（車椅子等）は良かったが、実際に使用している職員の生の声聞きたかった。特に庁舎内や日常生活での。

社会的障壁と合理的配慮の考え方はわかりましたが、常にそのことを考える必要あり。

障がい者の方2人のお話はとても有意義でしたが、条例解釈の難しい話を聞かされてもピンとこなかった。とても難しい条例だということはわかった。

## 平成26年度「合理的配慮の必要性を理解する」職員研修受講者アンケート集計結果

### 設問5 研修で学んだことを、今後の職務にどのように取り入れますか（主な回答）

同じ障がいでも、個人によって困るところ、支援を必要とするところは異なる。1人ひとりの状況を十分に把握し、配慮する必要があると強く感じたので、今後の対応の基本としたい。

身分証明を求める場合に、やみくもに運転免許証の提示を求めることへの配慮が必要と感じた。

障がい者の声を常に聴きながら業務を行う。

イベント開催時、障がい者の観覧スペースは特に配慮していきたい。

既存の事務事業を含め、これからの計画には障がいのある人に対する配慮を十分に考えていきたい。

設計業務に反映したい。

部下職員に対し、今日学んだことを伝えていきたい。

施設のバリアフリー等を考えていきたい。

合理的配慮の必要性を職場でも話す中で、具体例を挙げながら実践していきたい。

体験でしか理解できないことも多くある。相手側の視点、反対側のサイドに立って物事を考えてみる。常にこのことを頭に入れて対応したい。

障がいのある人への心づかいを常に考えることを職員に朝礼や終礼等で議題にあげていきたい。

体験できたことで身近に感じる事ができた。より実務に落とし込んでいきたい。

社会的障壁を常に意識して行動したい。

今後、ハード面での仕事（工事）には常に合理的配慮を考えていきたい。

パンフレット等での点字対応

演習で学んだように、まず「社会的障壁は何か」を考え、次にそれを取り除く方法を考える思考方法が有効と感じたので、取り入れたい。

「合理的配慮」をすすめる上で、社会的障壁から導く方法は今後の職務に生かせると感じた。

窓口業務、既存の業務を見直す上で大変参考になった。

障がい者の立場に立って、社会的障壁が取り除けるよう市職員としてできる限りの配慮を行いたいと思う。

廊下等に目配りをする。

職場の中でも広げていきたい（話題にしていく）。まずは、1分間スピーチや資料配布から。

課の施設等においても合理的配慮を必要とする場所や物の点検をする。

障がい者の方が生活しやすい合理的配慮について、職場の職員に平素から話し考えてもらおうと思う。

ケースバイケースで必要な対応をする。

講演会等の場での資料、席、手話、筆記等への配慮。各講演会の中で合理的配慮についての理解を広げていくこと等できることから取り組みたい。

実体験や使う人からの意見の聴取が必要と思う。

業務の中で常に意識し、職員にも意識付けを積極的に行っていきたい。

積極的に取り入れたいが、行き過ぎたサービスにならないよう気をつける必要がある。

## 平成26年度「合理的配慮の必要性を理解する」職員研修受講者アンケート集計結果

### 設問5 研修で学んだことを、今後の職務にどのように取り入れますか（主な回答）

思いやりの心を持ちながら、やさしく丁寧な対応に努めていきたい。

物をつくる、場所をつくるにあたって、今日の研修を考えつくりたい。ちょっとしたことを大切にしたい。

障がい者の方へ進んで声をかけるようにしたい。

支援することの大切さを常に考慮し、職務に取り組む。

体験することで、今後の施設のつくり方を考えさせられた。もっと広い視点で考える。

あらゆる業務、行事で本日の研修を取り入れ、障がい者へ配慮したい。

特に道路については課題が多すぎるが、少しずつ解決したい。

障がい者が現実に日常生活で困っている場面に遭遇したときは、援助するようにしたい。

## 平成26年度「合理的配慮の必要性を理解する」職員研修受講者アンケート集計結果

### 設問6 その他研修全般について、ご意見があれば記入してください（主な回答）

実践もありよく理解できた。  
庁外での研修も必要かと思われた。  
参考になった。  
社会的障壁が社会の側にあるもので、これらを解消する配慮が必要である。  
障がい者の生の声を取り入れたことは大変良い。  
体験時間は全職員に行っていただきたい。  
体験は良かった。  
時間もちょうどよい。  
体験することで、そく理解できた。  
このような気づきの研修は、全職員に定期的で開催していただきたい。  
体験が一番身につけやすいと感じた。  
もう少し体験事例を増やし、気持ちを理解させることが必要。  
障がいのある人が持つ障壁について、もっと情報発信してほしい。「気づき」を持てることが大事と思う。  
体験学習は効果があると思う。  
一般職員にもこのような研修が必要と感じる。  
全職員への研修が必要であると思う。  
障がい者の方は不便と感じたことはどんどん行政に伝えてほしい。できる限りのことは対応していきたい。  
今日以外の方の講義も受けてみたい。  
当事者の現状、意見→説明→実体験→演習と飽きさせない内容でよかった。  
講義、体験、演習と充実した研修内容でした。  
ユニバーサル化を含めた、政策企画研修へのレベルアップが必要。  
体験すること、当事者の話を聞くことは、何よりの研修だと思う。  
非常に有意義な話と貴重な体験ができ、今後も必要な研修である。  
何でもないこと、障がい者にとっては大変なこと、それは何かを考える機会が必要であると感じた。  
若い職員にも研修させるべき。  
このまま続けていくべき。  
職員全員が気配り、マナーを持つようになればよい。  
高齢の職員は親の介護などで今日の障がい者の方のお話のような状況に置かれていることも多いと思われる。条例の理屈の話よりも障がい者の体験話を聴きたい。